

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【報告書タイトル】

南北問題について ザンビア・日本を例に考える

【実践者】

氏名	堀 奏音	学校名	私立 青森明の星中学・高等学校
担当教科等	地歴・公民	対象学年（人数）	3年 5組（28名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年 11月 22日（金）		

【実践概要】

1. 単元(活動)名 第3章 第3節 国際社会の課題と日本の役割	
2. 単元目標 【単元目標】 先進国と発展途上国の経済格差について現状を把握し、望ましいあり方について考える。 【関連する学習指導要領上の目標】 よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	
3. 単元の評価規準	<p>①知識及び技能 発展途上国の経済と経済協力について、国際社会と国際連合は、持続可能な開発のための取組や人間の安全保障の取組などを進めているが、その一方で先進国と発展途上国との間、発展途上国間及び先進国内においても経済のグローバル化に伴って経済格差が存在していること、また、飢餓や貧困に苦しむ国々や地域は政治的に不安定になりやすく、国民の基本的な人権の保障及び実現確保が困難となり、国際社会の不安定要因となりやすいこと、そのことがさらに飢餓や貧困の問題ともつながっているという現状を踏まえて、国際経済格差の是正について、発展途上国の一国全体としての経済成長や発展を優先させようとする考え方と、人間の安全保障の取組や人権を重視して発展途上国内の極度の貧困教授用資料状況にある人々に対する援助を優先しようとする考え方について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。</p> <p>②思考力、判断力、表現力等 社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究する活動を通して、グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環</p>

	<p>境と資源・エネルギー問題，国際経済格差の是正と国際協力，イノベーションと成長市場，人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組，持続可能な国際社会づくりなどについて，取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察，構想し，よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明，論述している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ●国際社会の諸課題の学習を通して，自らの学習状況を把握し，学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら，主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>●グローバル化する国際社会の諸課題について，よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】 南北問題は中学校公民でも学習するが、ただ単純に「格差」というだけで片付けるのではなく、実際の写真・動画を活用してザンビアの様子を見てもらうことで、経済面以外にも目を向け、先進国・発展途上国の現状を正しく理解してもらうきっかけになると考えた。</p> <p>【単元の意義】 先進国と発展途上国との間，発展途上国間及び先進国内においても経済のグローバル化に伴って経済格差が存在していること，また，発展途上国の一国全体としての経済成長や発展を優先させようとする考え方と，人間の安全保障の取組や人権を重視して発展途上国内の極度の貧困状況にある人々に対する援助を優先しようとする考え方について，理解させたい。</p> <p>【生徒観】 対象クラスは、明るく好奇心旺盛な生徒が多く、日ごろから積極的に授業に参加する姿勢が見られる。本単元の学習を通して、広い視野を持った、グローバルな感覚を養うきっかけとしたい。</p> <p>【教材観】 本単元は、「現代の国際社会」の第3節にあたり，国際社会における日本の役割について取り上げ，核兵器の問題、環境問題、地域の課題など学習する分野となっている。 写真・動画などを活用し視覚に訴えることで，実社会の問題に関してリアリティをもたせながら生徒に考えさせたい。</p> <p>【指導観】 指導にあたっては、生徒に考えさせ、いろいろ意見を出してもらう場面が多くあるため、どんな小さな気づきも逃さず、積極的に意見交換・発言ができるよう促したい。</p>

5. 単元計画 (全 6 時間)			
時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	<p>『核兵器の廃絶と軍縮問題』</p> <p>①核開発競争の経緯をたどりつつ、ヒロシマ・ナガサキを契機とする世界の市民による反核運動や、核兵器の軍備管理・軍縮の歴史について理解を深める。</p> <p>②冷戦後の生物・化学兵器、地雷、クラスター爆弾などに関する国際的 NGO の取り組みについて学ぶと共に、21 世紀に入ってもなお厳しい世界の核兵器の現実を直視する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広島・長崎の悲惨な体験を共有できる証言や映像資料などを示し、核の恐怖と無意味さを知る契機とする。 ・地雷・クラスター爆弾禁止などでの NGO の活動を紹介し、市民の力による世界平和への貢献にふれる。 	
2	<p>『地域紛争と人種・民族問題』</p> <p>①冷戦終結後四半世紀を経た今日、21 世紀の世界がなお直面している民族紛争・地域紛争を取り上げて、その原因・解決策を考える。</p> <p>②民族紛争・地域紛争や難民問題解決のための、国連や多国間の取り組みの成果と課題、また NGO などの取り組みの成果と課題を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や画像資料を使いながら、世界の民族、宗教、地域を巡る紛争の例をあげ、生徒の問題意識を高めたい。 ・紛争の理由や背景について、生徒に調べさせ、その発表をもとに授業を展開する。 	
3	<p>『地球環境と資源・エネルギー問題』</p> <p>①地球環境問題の事例を理解し、その解決には何が必要なのかを考える。</p> <p>②地球環境問題に対し、これまで国際社会がどのように</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題は、新聞や雑誌などでもよく取り上げられるので、新聞記事などを教材とする。 ・地球環境問題と日本の環境問題とを関連づけて、その対応や解決策について考えさせる。 ・世界の資源・エネルギーの需給を展望して、どのような問題があるのかを考 	

	<p>取り組んできたのかを考える。</p>	<p>える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の資源・エネルギー問題については、石油代替エネルギーの開発など、その課題を考える。 	
4 本時	<p>『発展途上国の経済と経済協力』</p> <p>①南北問題について、経済格差(南南問題)の要因を理解し、その過程と現状を把握する。</p> <p>②発展途上国に対する、日本など先進国の望ましい経済協力のあり方について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先進国と発展途上国の経済格差について、国連の最新の資料などを用いて具体的な数字で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真・動画(ザンビアで撮影したもの) フォトランゲージ ちがいのちがい
5	<p>『日本の国際的地位と役割』</p> <p>①第二次世界大戦後の日本外交の軌跡を学習し、その現状と課題について理解を深める。</p> <p>②世界の平和、人権、環境などの課題に対して、日本の果たすべき役割について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今日の日本にはどのような外交的課題があるのか、意見を出しあうことを導入とする。 世界で活躍する日本人の例をあげながら、世界の平和、人権、環境などで果たすべき役割を考える。 	

<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の指標で比較するとどうだろうか。経済力と幸せは、連動しない。 ・ザンビア人の様子を見せる。 (実際にザンビアで撮影してきた写真・動画を活用する) ・ここまでの情報・気づきをもとに、気づいたこと・感じたことを記入する。 (3分) ・最後に、動画を見せる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアのコミュニティスクールで披露してくれた、子供たちによる歓迎の歌・ダンスの映像 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済力が高いからといって、幸福だとは限らない、ということに気付かせる。 ・いわゆる途上国に分類されているザンビアの人の雰囲気を感じ取ってもらう。 ・どんなことでも、気づいたことを挙げてもらうように促す。 ・「幸せなら態度で示そうよ」という歌詞から、幸福度との関連に気付かせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸福度ランキング 日本：47位 ザンビア：128位 ・写真、動画 ・感想記入用紙 ・歌：幸せなら手を叩こう
<p>7. 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を詰め込みすぎた。50分で実施するにはボリュームがありすぎた。 ・期待していた以上に生徒の活発な思考・討論がなされていて、授業展開はしやすかった。 ・教師主導の授業になってしまい、もっと生徒に考えさせるシーンを増やす必要があった。また、教師主導であるが故に、思考を誘導してしまった可能性がある点は、最も反省すべきところである。 			
<p>8. 学習方法及び外部との連携</p> <p>グループ学習を通して、活発な議論を行わせる。また、高校生らしい斬新な気づきを大切に、これから日本にいる我々には何ができるか、考えるきっかけとしたい。</p>			
<p>9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰国後すぐ、職員会議時に報告会を実施し、教職員に対して本研修で学んだことを伝えた。 ・今後の教師海外研修をはじめ、国際理解教育に興味を持ってもらうきっかけ作りの一つとして、JICA 東北青森デスク企画の研修（オンライン）の話者となり、実際に現地で得た学びを話した。 ・1/24（金）、全校生徒を対象に、ザンビアでの体験報告を行い、海外・途上国の現状について話した。 			

【自己評価】

10. 苦労した点	生徒にはできるだけ「遠い国のもの」ではなく、身近な話題としてとらえて欲しいとの思いから、教科書で出てくる用語や既習事項をもとに授業を構成したところ、自由な発想を生徒に与えることがかえって難しくなってしまったように感じた。生徒に、もっと自由に考えさせる時間を割くと良かった。
11. 改善点	50分ではなく、2コマ続きで余裕をもって時間をとると、焦らず、生徒との対話をきっかけに様々な観点で考えることができたのではないかと感じた。 教師主導ではなく、生徒が気づいた点を深掘りし、そこから日本にいる高校生は、途上国に対してどのようなことができるかを考えると良かった。
12. 成果が出た点	ザンビアという、日頃あまりなじみのない国のことについて、生徒は興味津々であった。写真や体験談一つ一つが新鮮で、生徒が問いに対して一生懸命に考えようとしてくれた。また、「南北問題」という話題は既習事項であり、難しい話からのスタートではなかったことは、展開としてよかった。
13. 学びの軌跡 (児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど)	おそらく本校生徒や教職員のほとんどが「ザンビアってどこ？」と言っていたが、私が帰国してから、ザンビアという国の認知度が格段に上がったと感じる。授業実践に際しても、生徒たちからは「楽しみだ」「もっと知りたい」といった声があり、また、授業実践に行けていないクラスからも「ぜひザンビアの話聞かせてほしい」と要望が出るほどである。これは、私が実際に本研修に参加し、勤務校にフィードバックすることにより、途上国・アフリカについて学ぶハードルが下がったと言える。
14. 授業者による自由記述	私自身、海外に行った経験もほとんどなく、途上国についても詳しくわかっていない状態での出発であったが、実際に足を運び、様々なものを見聞きし、肌で感じたこの経験は、何事にも代えがたい貴重な時間であった。 授業が知識偏重になりがちで困っていた私にとって、とても有意義な機会になったと感じる。 ぜひ多くの教員の方々にも、現地に足を運んで、そこでの気づきを授業に、生徒に、そして自身の成長に活かしていただきたいと思う。

参考資料：

ウェブサイト

「グローバルノート」世界の名目 GDP 国別ランキング・推移 (IMF)

「Sustainable Development Report 2024」SDGs 達成度ランキング

「World Happiness Report 2023」世界幸福度ランキング 2023

2024.11.22

JICA 教師海外研修授業実践

「南北問題について、ザンビア・日本を例に考える」

3年5組 番氏名

◎南北問題とは？

※MISSION①～③は、机の上にあるメモ用紙を使ってください。

◎MISSION④

◎MISSION⑤

◎MISSION⑥

